

2021年度大学図書館近畿イニシアティブ初任者研修 事前質問と当日質問

講義1「電子リソース管理」講師：大阪市立大学学術情報課 中村健氏

no.	内容	回答
1	電子リソースの契約の進捗状況管理をどのようにされていますか。使用しているツールやフォーマットなどがあればご教示いただけますと幸いです。	図書館システム、エクセル、ERMSなど管理のツールは様々ありますが、それぞれに一長一短があります。エクセルは担当者によって管理項目が任意に増減できますので、よく使われているように感じます。
2	学術系SNSのところでResearch Gate の話が少し出てきましたが、利用者から論文の複写の申込みがあった際に該当論文がResearch Gateで公開されていたら、図書館としては印刷して渡してよいのでしょうか。出版社が公開しているものではないので、やはり著作権などの観点から考えると良くないのでしょうか。	基本的にResearch Gateなど学術系SNSは個人利用のものと考えますので、質問された点も踏まえて図書館業務で利用するには適していないと考えます。
3	電子リソースは図書館で実体としてコンテンツが蓄積されていないという点にも関連して、移管誌（特に購読規模維持タイトル）の管理について適切な方法はどうか考えますか。購読履歴を追いきれないことがあり、悩みどころになっています。	移管誌の管理については契約情報を遡って管理しないと把握できないため、非常に根気がある業務です。アクセス権管理の台帳となるもの（図書館システム、エクセルなど）に、根気よく記録し続け、その作業を代々引き継いでいただくことが大切と考えます。
4	NACIS-CATの改修にあたって、ERMSへの対応が各図書館システムでもにわかにも求められる状況となってきていると思われませんが、ERMSの電子リソース管理における利点はこういったところになると思えますか。	ERMSは、プリント版の管理を担っていた図書館システムにはない項目（管理者情報、タスク管理に関するもの）を持っているのが特徴で、この機能をどのように感じるかがポイントだと思います。
5	業務でILLの複写依頼を担当しているのですが、電子ジャーナルに掲載されている論文の複写について、冊子体の発行がなくNIIの検索で所蔵館がヒットしない（海外のジャーナルなど）場合、所蔵館を探す方法がありますか。所蔵のありそうな大学の図書館のホームページからOPACや契約しているパッケージの一覧を個別に探していくしかないのでしょうか。	海外の図書館の蔵書をまとめて探すことができるWorldCatで所蔵館を探すことができます。またDOAJやOpenAIREなどでオープンアクセスされているかを確認することができます。こうしたものを組み合わせながら自分の方法を築き上げていただければと思います。
6	電子ジャーナルの提供で有料検索ツール（ディスカバリーサービスなど）と無料検索ツール（Google Scholarなど）がありますが、利用者へ向けた提供機能面ではどのような違いがありますでしょうか？	ディスカバリーサービスなど有料の検索システムは、収録情報も学術情報に特化しており、無料のツールでは検索されない学術情報が収録されていることが特徴と考えます。
7	スライド21の電子ジャーナルの契約条件の例にあるローリングとはどんなものなのでしょうか。	カレント契約のパターンにあるもので、契約更新するごとに利用可能な範囲が変動していく契約をいいます。保坂睦『はじめての電子ジャーナル管理』日本図書館協会、2017年、P233に説明があります。

講義2「図書館サービスの利用促進に必要な伝え方」講師：株式会社サンメディアe-Portカンパニー 内山佳代子氏

no.	内容	回答
1	図書館からの広報ツール（掲示・HP・メール・SNS等）として何を利用されているか。また、そのうちのどのツールが最も利用者に届いている（見られている）を思われるか。	<p>（講義中に回答：事例紹介）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内掲示、ウェブサイトお知らせ、Twitter、学内のインフォメーションシステムを利用。顕著にどのツールがよく見られているという傾向は読み取れないがイベントでは館内掲示を見て、ということが多い。 ・利用者アンケートの結果を反映して、先生には紙の案内を用意して配布した。学生には図書館HPのみで案内している。
2	メンテナンスしやすく、かつ効率的に情報を届ける方法を知りたい。	<p>（講義中に回答：事例紹介）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色のあるところとしては、Libguidesというウェブのパスファインダー提供ツールを使用している。 ・HP更新をしたら、Twitterにも案内を投稿しているが、自動的にTwitterへ投稿ができないか検証中。
3	ターゲットを説得する広報を行うという点について、利用促進のような利用者にとってプラスでしかない情報の場合は、考えようが多々あると思われるが、図書館では禁止事項の伝達などのマイナスの情報を訴求しなければならない状況もママ生じます。こういったケースでのうまい伝達方法としては、どういった手法が考えられますでしょうか。	<p>最初から利用者全体に対して禁止事項として伝えるのではなく、まずは個別に丁寧に説明する。感情的にならずに伝える。</p> <p>個別説明の際、100%ではなくても要望に沿えそうな代案を伝えてみると、ターゲットも納得しやすいかもしれない。</p>
4	図書館でキャラクターを使って広報を行う場合の留意点があればご教示ください。グッズを作成したり、ポスターにイラストを入れることは行っているのですが、より効果的な展開、活用法などはあるでしょうか？	<p>利用者の目につきやすいところに広報キャラクターを利用する。キャラクターを情報を伝えるために使っているか、ただの絵として配置していないかを考える。利用者の行動と紐づけることで、図書館の使い方を伝えるとともにキャラクターの認知にも繋がる。</p> <p>大学や図書館のキャラクターは乱立させず、なるべく統一する。複数キャラクターを使う場合、資料37ページの鹿児島大学の事例のように、各キャラクターの担当サービスを決めるのも効果的。</p>
5	本学図書館ではTwitterによる広報を検討していたのですが、大学側より必要性を感じないと却下された経緯があります。Twitter利用のメリット、デメリットなどが知りたいです。	<p>メリットは無料で手軽に使えること。デメリットはプライベートで使うイメージがあるため、学術業界での広報ツールとして理解されづらい。</p> <p>逆に利用者の立場になると、先生方はよく使っている。利用者がよく使っているツールという視点で大学と交渉する。</p> <p>あるいは「SNS広報の需要を測りたい。まずは無料かつ手軽に開始できるTwitterで試してみて、利用者に効果的な案内ができそうであれば継続、または、より良い媒体の利用を検討したい」という形で、試験的な運用を提案してみる。</p>
6	ターゲットに近づく視点や思考を磨くためにどのような点を普段から鍛えておけばよいとありますかでしょうか。	<p>自分の立場を一度忘れた上で、ターゲットのプロファイリングをする。自身の立場だと、仕事のし易さや運営面を考えてしまう。自分が学生や研究者ならどうするかを考える。</p>
7	参考資料でご紹介いただいた大学図書館の広報事例で、特に内山先生が良いと思われる点を教えて下さい。	<p>ご紹介した広報事例6件はいずれもターゲットが明確で、メッセージも簡潔でわかりやすいので、見た人が「自分に関係があることだ！」と直感できる資料になっている。</p> <p>京都大学（レポート準備講習会）：ビジュアル化がよい。ターゲット、短時間で学べることを明記している。</p> <p>同志社大学（データベース講習会）：色分けが分かりやすい。QRコードやキャッチコピーもよい。</p> <p>「大学図書館 講習会」でGoogleで探すをいろいろ出てる。デザインや内容に困ったときは他大学を参考にする。</p>